



## 国語教育講座 棚橋尚子 特任教授



## 漢字学習における学習負担の改善



キーワード 国語科教育/ 漢字学習/ 漢字と学力/

## どのような研究をなぜ行っているか

もともと中学校や小学校の教員として教鞭をとっていた私は、国語の学力が全教科の学力に関連することを経験的に感じていました。さらにその根幹をなすものに漢字があるとも考えていました。

漢字かな交じり文で表記される日本語は、実はどのように書いてもかまわないのですが、読みやすさの点から漢字で表記する語句と仮名で表記する語句にはある程度の規則性があります。漢字で書く語句には専門的な語句（名詞）や厳密な思考に関わる語句（サ変動詞）が多く、そのことが教科の内容理解や思考、表現の力に関係してきます。

つまり漢字をしっかりと学べていないと、教科の学力も十分に醸成できないのです。日本で学ぶ子供が漢字でつまづいて教科学力が伸びないということがないようにしたい。すべての子供が、漢字を基盤にしっかりと教科学習を進められるようにしたい。—これは私の心からの願いです。漢字学習の負担の改善こそが自分が研究する道だと考えています。

このような考えから、以下のような研究をしています。

## 1) 発達段階に応じた漢字学習の方法

アルファベット文字と異なり、漢字は手で書くことによって定着します。小学校中学年辺りまでの反復学習に耐えられる年代でしっかりと基礎的な「構成要素」を習得することが大切です。

## 2) 振り仮名の活用

漢字ルビ（「ルビ」は活字に対して使う用語です。）が、漢字読字のみならず書字にとっても有効であることが私の調査により明確になりました。

## 3) 教科に特徴的な漢字と国語科以外での指導

学年別漢字配当表の漢字の中には、国語科以外の教科に特徴的に表れる漢字が少なくありません。頻度や対数尤度比からそのような漢字群を抽出し、国語科以外での指導のあり方を提案しました。

## 4) 漢字の評価の問題点と改善の方向性

本来漢字の習得は、習得した漢字を含む語句を習得し語彙に広がっていくものでなければなりません。しかし、教育現場での評価の中心は漢字字形のいわゆる「正誤」にあります。もともと漢字の字形は無限に存在し、はっきり言って読めれば大丈夫なのです。そのような点を研究をして提案しています。

## 研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

私の研究は、学校現場で先生方に一緒に考えていただくことにより、児童生徒の皆さんが日本語における漢字の重要性を認識し、前向きに習得していこうとする意欲を育て学力全体を向上することにつながると考えています。

## これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

光村図書小学校国語教科書編集委員（2002年度～）  
光村図書小学校国語辞典・漢字辞典編集委員（2003年度～）  
福井県白川静漢字教育賞選考委員（2012年度～）  
日本漢字能力検定協会研究助成制度選考委員（2012年度～）  
文化審議会国語分科会委員（2014年度～2015年度）  
ちゅうでん教育大賞選考委員（2014年度～）  
奈良教弘実践研究論文選考委員（2017年度～）

